

ホームページのご紹介

『羽田空港BIG BIRD』ホームページ

<http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/>



ショッピングサイト『羽田空港セレクション』をリニューアルしました。

<http://www.bigbird-shopping.com/>



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年の3月31日まで

定時株主総会 毎年6月に開催いたします。

基準日 定時株主総会の議決権 3月31日

期末配当金 3月31日

中間配当金 9月30日

公告掲載新聞 東京都において発行する日本経済新聞

株主名簿管理人 〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号

みずほ信託銀行株式会社

同事務取扱所 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

TEL:0120-288-324(フリーダイヤル)

〒144-0041 東京都大田区羽田空港三丁目3番2号(東京国際空港内)

TEL:03-5757-8000

<http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/>

Japan Airport Terminal Co., Ltd.

第66期中間事業報告書

2009年4月1日～2009年9月30日



羽田は生まれ変わります。

2010年10月の羽田空港再拡張に向けて、
事業、財務、組織の3戦略を柱として、一層の社業の発展に努めてまいります。



代表取締役社長
鷹城 勲

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
当社第66期の中間期(2009年4月1日から2009年9月30日まで)のご報告をするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

当社が事業を展開しております航空業界においては、景気の低迷に加え、新型インフルエンザ等の影響により大幅に減少した国内線・国際線航空旅客数は、7月以降、9月の大型連休などもあり、その減少幅が縮小しております。特に、国際線航空旅客における、出国日本人旅客や訪日中国人旅客は、燃油サーチャージの廃止等により、その傾向が強くなりました。しかしながら、新型インフルエンザへの懸念や燃油価格の上昇基調など、依然として先行きは不透明な状況にあります。

このような状況の下、当社グループは、引き続き旅客ターミナルビルにおける安全対策強化に全力を傾注するとともに、顧客第一主義の徹底を図り、全社を挙げて一層のサービス向上に努めてまいりました。また、旅客ターミナルビル運営の効率化に取り組み、業務の活性化と経営の合理化を図り、社業発展と経営基盤の強化に努めてまいりました。

当社は、企業価値の向上を目的として、事業戦略、財務戦略、組織戦略の3戦略を推進しておりますが、財務戦略の一環として資本効率の改善および自己資本当期純利益率(ROE)の向上を目的とし、本年7月28日に約2,000万株の自己株式を公開買付けにより取得いたしました。さらに、株主利益の増加を図ることを目的として、本年9月30日に約1,600万株を消却いたしました。

組織戦略においては、監督と執行の分離および意思決定の迅速化を目指して執行役員制度を導入いたしました。また、より効率的・機動的な組織体制を狙いとして子会社の一部を統合

▶ 中期経営計画(収支計画等)

収支計画 (単位: 億円)	2007年度	2008年度	2009年度	
	実績	実績	※(目標)	※(業績予想)
営業収益	1,394	1,323	1,375	1,215
施設管理運営業	382	389	381	379
物品販売業	855	783	830	696
飲食業	155	149	164	140
営業利益	77	63	102	48
経常利益	78	67	100	43

※目標…2007年5月中期経営計画発表、業績予想…2009年11月発表

し、東京国際空港(羽田)新国際線旅客ターミナルビルにおいて当社グループが受託する事業展開に対応した組織体制を順次整えております。

当中間期における当社グループの収益は、航空旅客数の減少幅の縮小の動きがみられたものの、消費者マインドの低迷や成田国際空港における他社免税売店への卸売の一部終了等、引き続き厳しい状況で推移いたしました。このような厳しい事業環境下において、当社グループは、グループ一丸となって一層の増収策の実施や徹底したコスト削減等を強力に推進し、業績を回復するべく努めてまいりました。

当社グループを取り巻く事業環境は、第1四半期において大幅に減少した国内線・国際線航空旅客数の減少幅は縮小する傾向がみられておりますが、新型インフルエンザへの懸念や燃油価格の上昇基調など、依然として先行きは不透明な状況にあります。

当社グループといたしましては、本年10月25日に就航した羽田-北京間国際旅客チャーター便への適切な対応や羽田限定新商品の開発、卸売業務等の強化および外国人旅客の囲い込み等、引き続き一層の増収策や徹底したコスト削減等を着実に実行し、経営基盤の安定化に努め、来年10月に迫った羽田空港再拡張事業による航空輸送拡大・発展に備えて、万全な体制を整えてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2009年12月

代表取締役社長

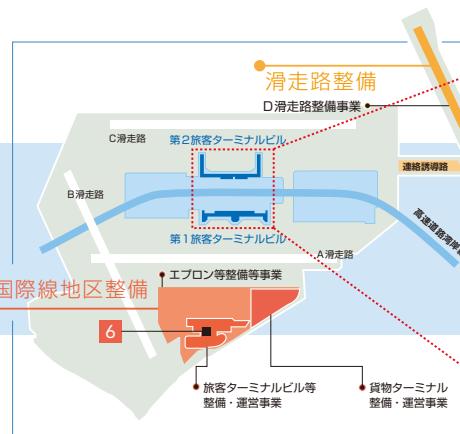
鷹城 勲



羽田空港再拡張事業

広がる。新しい羽田。

羽田空港は、発着能力が既に限界に達しており、首都圏における将来の航空需要の増大に対応するための再拡張が、進められております。再拡張事業は、国による「D滑走路整備事業」のほか、旅客ターミナルビル等整備・運営事業、貨物ターミナル整備・運営事業、エプロン等整備等事業に関わる「国際線地区整備等事業」を大きな柱としております。

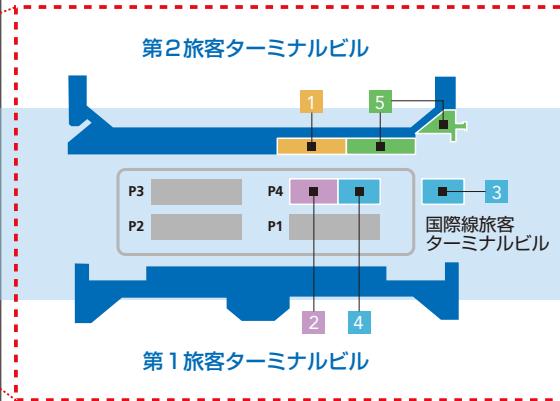


▼再拡張事業の目的

発着能力の増強 (1.3倍)
30.3万回/年 → 40.7万回/年 31便/時間 → 40便/時間
● 発着容量の制約の解消
● 利用者の利便性の向上
● 将来の国内航空需要対応と国際線定期便の受け入れを目指す

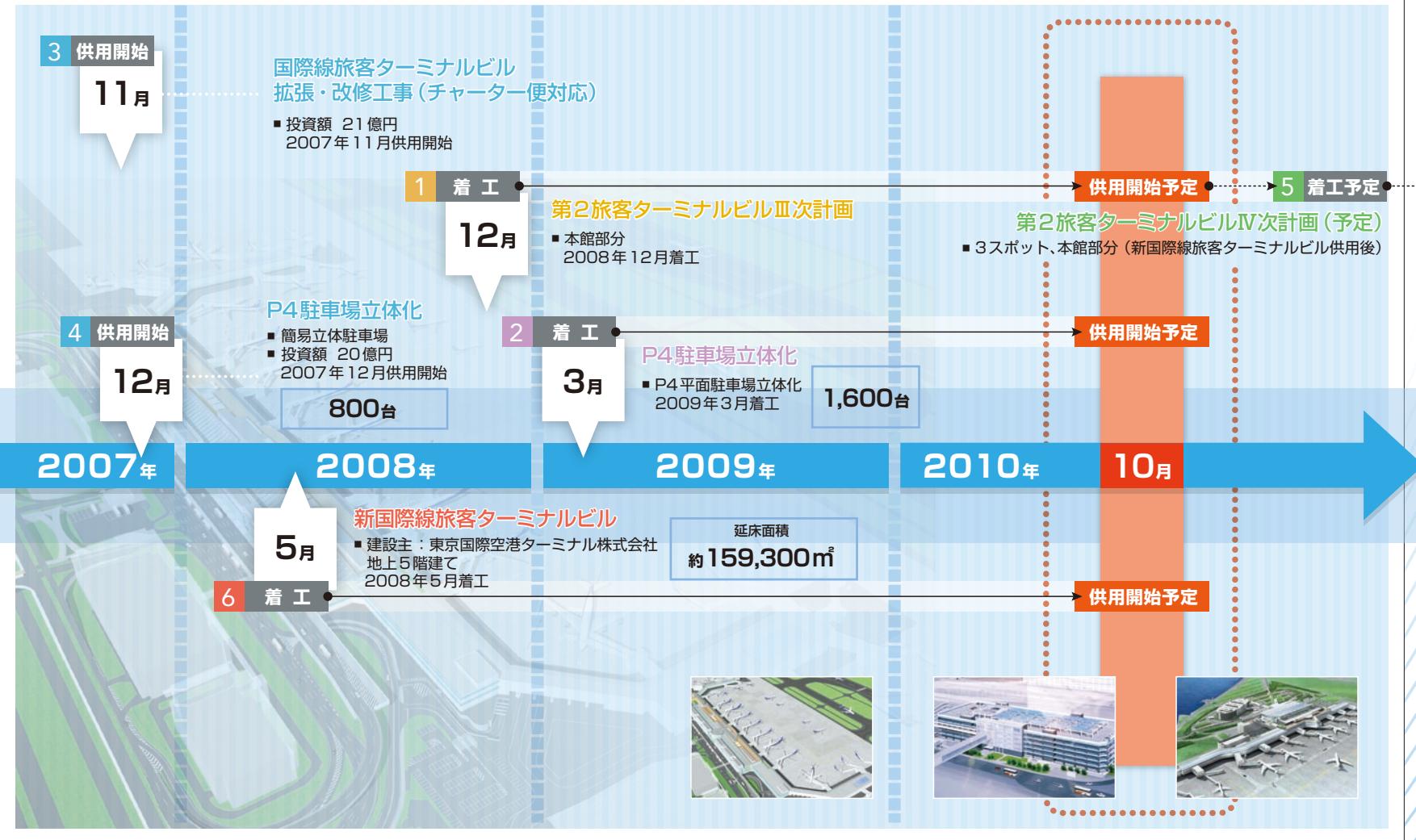
2010年10月、羽田は生まれ変わります。

羽田空港では2010年10月の供用開始に向けて、D滑走路整備や国際線定期便就航に対応する地上5階、延床面積約159,300平方メートルの新国際線旅客ターミナルビルの建設など、再拡張事業に関する各種工事が進行中です。また、1,600台規模のP4駐車場の立体化工事も進めております。



D滑走路の供用により、年間発着能力が40.7万回と従来の1.3倍に増強され、国内線の増便だけでなく国際線定期便の就航も可能となり、首都圏の利用者のみならず、羽田空港との路線を持つ各地域の利用者にとっても利便性が向上します。当社はこうした環境変化をビジネスチャンスと捉え、新たな収益基盤の確保に努めます。

当社の取り組みと計画



特集 …進化する羽田空港

Special Feature



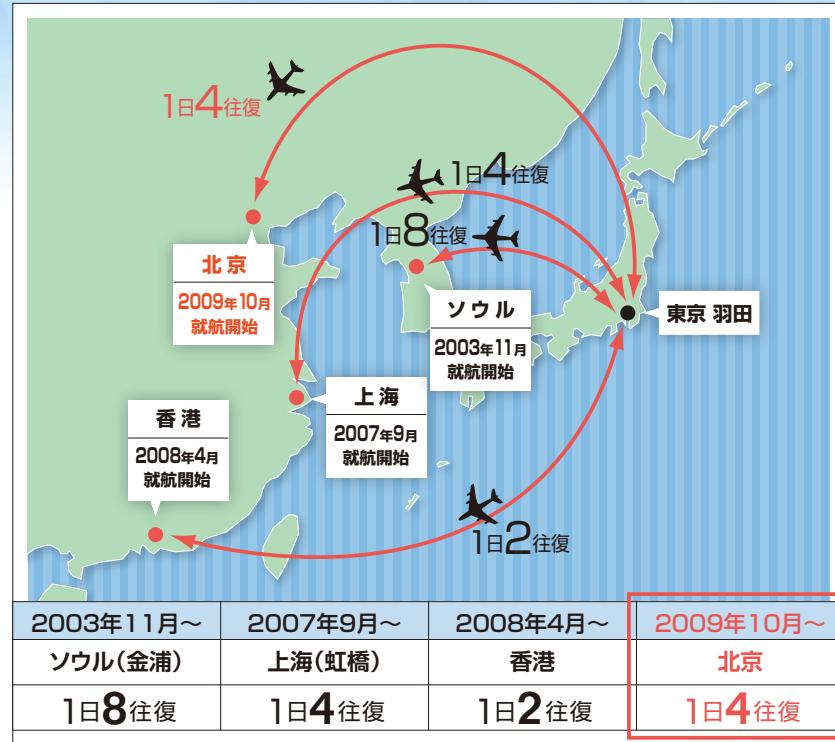
北京便就航

羽田空港と北京首都国際空港を結ぶ国際旅客チャーター便が2009年10月25日から就航しました。国際旅客チャーター便は羽田と北京間を約3時間で結び、1日4往復します。

2003年11月の韓国金浦空港への国際旅客チャーター便就航を皮切りに、2007年9月の中国上海虹橋空港への就航、2008年4月の香港への就航に加え、今回の北京は4都市目となります。北京へのご旅行の際には、ぜひ羽田空港をご利用ください。



北京首都国際空港



※2009年11月現在

羽田⇄北京線就航記念「北京 week in HANEDA」開催および北京首都国際空港との業務協力／人事交流

当社では、羽田・北京便就航を新たなビジネスチャンスと捉え、就航に先駆けて、9月30日から10月7日の間、羽田空港第1旅客ターミナルビル、第2旅客ターミナルビルにおいて、路線就航を幅広く周知させ、需要喚起を図るため、「北京 week in HANEDA」を開催しました。

また、既に首都機場集団公司(北京首都国際空港)との間で業務協力や人事交流等について覚書を締結しておりますが、羽田・北京便就航を機にその具体化を図り、両社の友好関係の増進、旅客ターミナルビルのサービスレベルの向上につなげてまいります。



「北京 week in HANEDA」イベント

羽田空港第2旅客ターミナルビルの増築

D滑走路整備に伴う国内線発着枠の増加に対応するため、2008年12月に第2旅客ターミナルビル本館増築工事に着手しました。2009年11月末現在、同工事の進捗率は約80%であり、2010年10月の供用開始を目的に鋭意工事を推進しております。

供用開始後は、出発・到着ロビーが広くなるとともに、出発保安検査場、到着手荷物ターンテーブル、商業施設が増設され、さらなる利便性、快適性、機能性の向上が図られます。



建設が進む第2旅客ターミナルビル増築部分

P4駐車場立体化

2007年12月、羽田空港内の駐車場混雑緩和などを図るため「P4簡易立体駐車場」(収容台数800台)を建設・供用開始しました。

今後も国内線航空旅客数の増加が見込まれることから、さらなる利便性の向上および駐車場混雑の緩和を図るため、隣接する敷地に1,600台規模の本格立体駐車場を建設することとしました。2009年3月から建設工事に着手し、第2旅客ターミナルビル本館増築工事の進捗にあわせ、2010年10月の供用開始を目的に鋭意工事を推進しております。



完成イメージ

新国際線旅客ターミナルビル建設

2010年10月に予定されている国際線定期便の就航に対応するため、新たに地上5階、延床面積約159,300平方メートルの新国際線旅客ターミナルビルの建設が進められております。建設主体は、当社が中核となり航空会社等と出資設立した「東京国際空港ターミナル株式会社」で、工事は順調に進んでおります。当社は同社より、運営・維持管理、商品販売業務等を受託し、今後も国際線を利用されるお客さまへの利便性・快適性・機能性の向上を図ってまいります。



建設が進む新国際線旅客ターミナルビル「大屋根」部分

完成イメージ

トピックス

…新たな取り組み
Topics

Digital Public Art in HANEDA AIRPORT

『空気の港 ～テクノロジー × 空気で感じる新しい世界～』展を開催

当社は、1日に約18万人の旅客が利用される羽田空港旅客ターミナルビル全体を展示会場として、最先端技術をパブリックアートに用いた『空気の港』展を東京大学との産学連携共催により10月9日から11月3日の期間、開催しました。

展示をご覧になったお客さまからは「飛行機に乗る前に素晴らしい体験ができた」、「空港が子供の笑顔で溢れていた」といった、多くの

ご意見をいただきましたので、全19作品のうち特に好評な6作品の展示を、年明けまで延長することを決定しました。

空港を訪れるすべてのお客さまに夢とロマン、科学への興味を持ってもらえるよう、今後もこのようなイベントに積極的に取り組むとともに、先端技術を活かしながら人にも環境にもやさしい世界一のサービスを提供できる旅客ターミナルビルの実現を目指してまいります。

『空気の港』に展示された主な作品



大きな空気の人

展示会のシンボルとなった「空気の人」。空気を人の形に切り取ることで、普段は意識しない「空気」の存在や、人と空気の間関係を改めて見つめなおす作品。



まばたきの葉

作品の筒の部分に、開いた目と閉じた目が表裏に印刷された木の葉型の紙を入れると、空中でまばたきをしながら舞い降りてきます。子どもと大人が一緒に遊ぶ姿が印象的でした。



出発の星座

実際の飛行機の出発に合わせて、旅客ターミナルビルの天井に設置されたLEDが星のまたたきのように点滅し、目的地の方向に向かって飛行機が飛んで行くように見えます。粒子型ディスプレイシステムと眼の残像効果を組み合わせた作品。

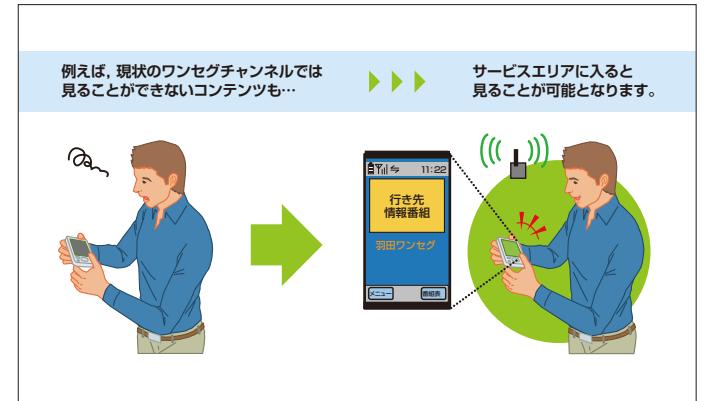
写真提供: Digital Public Art Project

羽田空港での「エリア限定型ワンセグ およびマルチメディア放送技術」実証実験のお知らせ

当社では、羽田空港ご利用のお客さまのサービス向上を目的に、ICT技術^(※)を利用する総務省の「ユビキタス特区」事業に参画し、ワンセグ技術を用いた情報発信サービスの開発・実証実験を実施中です。

航空旅客などを対象として、ワンセグ放送技術を利用し、空港内の特定エリアで、お土産情報、レストラン情報、周辺観光情報などを、ワンセグ対応可能な携帯電話等で受信できるサービスを提供します。

※ Information and Communication Technologyの略で、情報(information)や通信(communication)に関する技術の総称。



「HANEDA元気!元気!元気!キャンペーン」を開催

羽田空港を利用されるお客さまに対し、日々の心温まるサービスの提供に加え、「元気!」も提供したいという若手社員の発案により、組織横断的に多くのスタッフが集い、「HANEDA元気!元気!元気!キャンペーン」を企画し、6月30日から7月6日まで実施しました。

3,000円のお買い上げごとにスクラッチカードによる景品交換(館内でご利用可能なクーポン券)と、地球環境にやさしいハイブリッドカーや旅行券などが当選するオープン懸賞(2009年6月30日から7月31日まで実施)の2本立てのプレゼントを用意し、当社社員が実際にキャンペーンの場に足を運び、抽選や景品引換えに参画しました。

当社は今後も、社員発案によるキャンペーンやイベントの企画・実施を継続し、ご利用されるお客さまに、さらなる満足や喜びを提供していきたいと考えております。



..... 第1旅客ターミナルビルに「キッズラウンジ」がオープン

当社は、羽田空港第1旅客ターミナルビルの南ウイング2階に、小さなお子様連れの方が、周りに気を遣わずリラックスして過ごせる空間として、「キッズラウンジ」を7月7日にオープンしました。この「キッズラウンジ」は、シンボルキャラクターとして

イタリアの乗用玩具「RODY」を採用し、3つのゾーン構成(カフェ・ショップ・遊び場)のすべてに同キャラクターを配置しました。また、大型遊具の設置や「RODY」ショップ・離乳食もラインアップしたこだわりのカフェメニューを用意しております。



カフェ

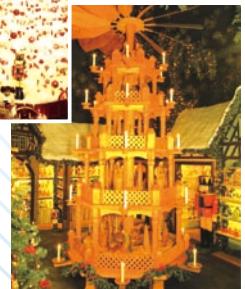
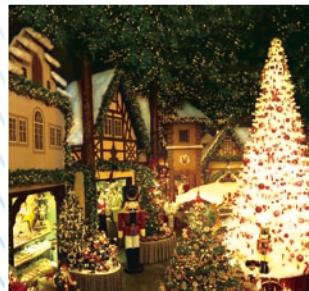


ショップ



遊び場

..... ドイツ・ローテンブルクのクリスマスがやってくる



ドイツ・クリスマスイメージ

中世の風情を色濃く残す珠玉の城塞都市、ドイツ連邦共和国ローテンブルク市のシュピタル門に刻まれる「PAX INTRANTIBVS SALVS EXEVNTIBVS」という碑文は、「訪れる人に安らぎを、去り行く人にしあわせを」を意味し、これがまさに当社のCS理念です。旅客ターミナルビルを使い、これから旅を始められるお客さま、家路につかれるお客さま、それぞれのお客さまに安らぎと幸せを感じていただくことが当社の願いです。

そこで本年は羽田空港において、人々に感動を与えるヨーロッパのクリスマスと、とりわけ、ドイツのロマンチック街道の町・ローテンブルクをイメージしたクリスマスを演出し、11月20日より、本場のガラス製のオーナメントの展示や、当社のスタッフが現地で買い付けたクリスマス関連商品の販売を、第1旅客ターミナルビル内「シャルム」にて行います。皆さまに幸せを感じていただける心温まる空間をどうぞお楽しみください。

当社では、地球規模で広がる地球温暖化対策として以下の取り組みを実施しております。



太陽光発電システム導入

地球温暖化対策が世界的な課題とされる中、極めて公共性の高い羽田空港旅客ターミナルビルについても、CO₂を排出しない自然エネルギーを活用することが求められております。当社は、CO₂削減策の一環として、自然エネルギーの中で注目の高い太陽光発電システムの設置を2008年より検討してまいりましたが、本年11月よりその設置工事を開始しました。第1旅客ターミナルビル屋上4カ所、第2旅客ターミナルビル屋上2カ所、2010年10月完成予定のP4立体駐車場屋上1カ所に設置します。設置総面積10,120平方メートル、総発電量1,240kW値は、日本の空港の旅客ターミナルビルではNo.1の規模です。

2010年3月から順次供用開始し、年間439トンのCO₂削減が可能となります。



羽田空港第1旅客ターミナルビル 太陽光発電パネル 設置イメージ



羽田空港第2旅客ターミナルビル 太陽光発電パネル 設置イメージ

さらなるCO₂削減
を目指して

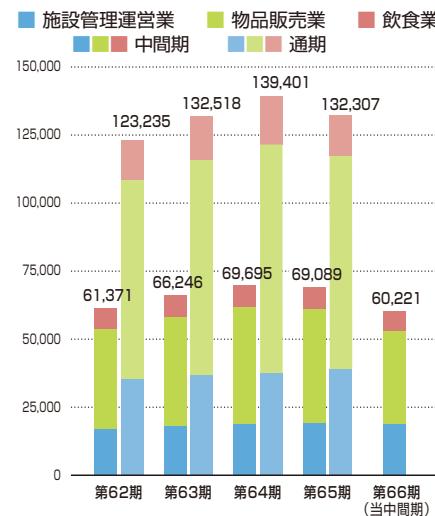
その他の代表的な環境対策として、公共ロビー部分においてもクールビズ・ウォームビズ等を実施し、CO₂の削減に努めております。またこれによるエネルギー使用量減少に伴う省コスト分については、一部をグリーン電力(CO₂を排出しない自然エネルギー)へ投資し、CO₂削減に寄与しております。

連結財務ハイライト

Consolidated Financial Highlights

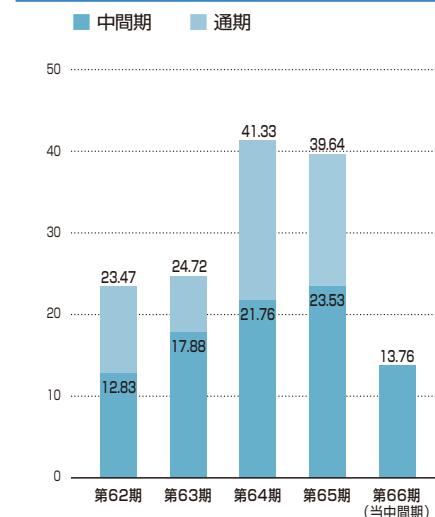
営業収益

(単位 百万円)



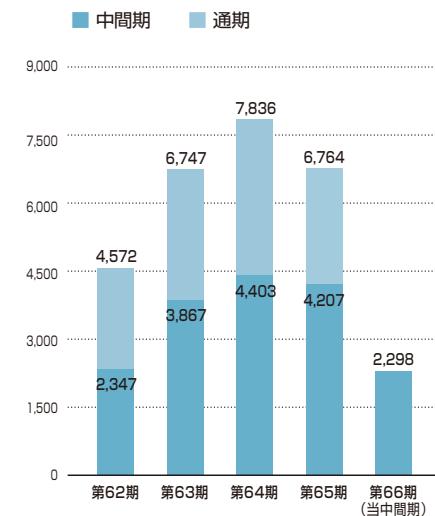
1株当たり中間(当期)純利益

(単位 円)



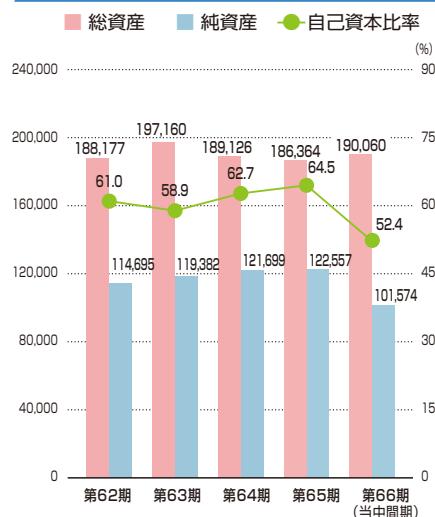
経常利益

(単位 百万円)



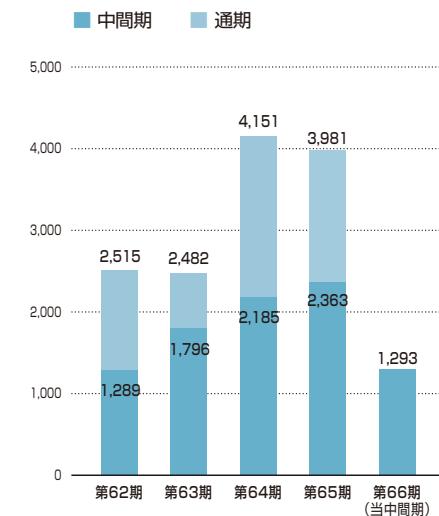
総資産/純資産/自己資本比率

(単位 百万円/%)



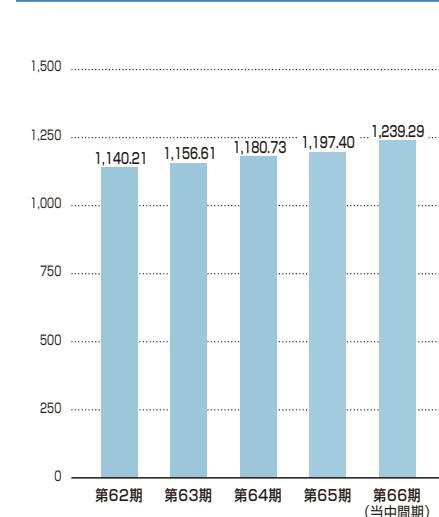
中間(当期)純利益

(単位 百万円)



1株当たり純資産

(単位 円)

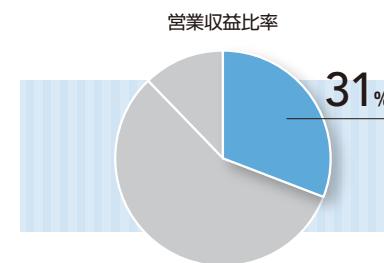


事業別概況

Segment Information

※本文内の事業別営業収益には、セグメント間の営業収益が含まれます。

施設管理運営業



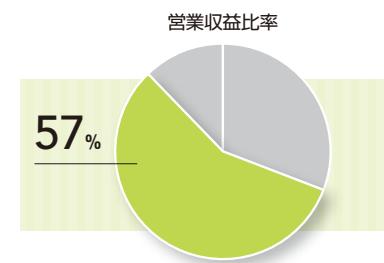
家賃収入は、羽田空港国内線旅客ターミナルビルにおいては、航空会社用事務室賃貸スペースの減少等により、前年を下回りました。

施設利用料収入は、羽田空港国内線航空旅客数の減少等により、前年を下回りました。

その他の収入は、有料待合室「エアポートラウンジ」の利用件数および駐車場の利用台数の減少に加え、請負工事収入の減少等により、前年を下回りました。

その結果、施設管理運営業の営業収益は、198億7千4百万円(前年同期比2.9%減)、営業利益は、減価償却費の逓減および水道光熱費の減少等により14億1百万円(前年同期比0.0%減)となりました。

物品販売業



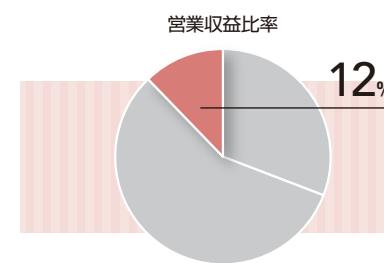
国内線売店につきましては、新規ブランドの導入や販売促進キャンペーンの実施およびインターネット上のショッピングサイトのリニューアル等、収益力の向上に努めましたが、国内線航空旅客数の減少を受け、売上は前年を下回りました。

国際線売店につきましては、国際線航空旅客数の減少や、為替変動による訪日外国人旅客の購買力の低下等の影響により、売上は前年を大きく下回りました。

その他の売上につきましては、新規の卸売先の拡充に努めましたが、国際線航空旅客数の減少に伴う影響および卸売契約が一部終了したこと等により、売上は前年を大きく下回りました。

その結果、物品販売業の営業収益は347億2千8百万円(前年同期比17.6%減)、営業利益は28億3千5百万円(前年同期比31.3%減)となりました。

飲食業



飲食店舗につきましては、羽田空港国内線旅客ターミナルビルにおける新規フランチャイズ店舗の展開等売上増進に努めましたが、航空旅客数の減少等により、売上は前年を下回りました。

機内食につきましては、顧客航空会社が進めるコスト削減および機材の小型化や就航便数の減少等の影響を受け、売上は前年を下回りました。

その結果、飲食業の営業収益は81億1千7百万円(前年同期比9.2%減)、営業利益は、各種コスト削減に努めたものの、3千8百万円の営業損失となりました。

連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

中間連結貸借対照表(要旨)

(単位 百万円)

	当中間期 2009年9月30日現在	前期 2009年3月31日現在	増減
(資産の部)			
流動資産	33,241	30,274	2,966
現金及び預金	19,409	15,910	3,498
売掛金	5,684	5,456	227
有価証券	1,449	2,549	△ 1,100
たな卸資産	3,265	3,965	△ 700
繰延税金資産	1,066	1,093	△ 27
その他	2,405	1,341	1,064
貸倒引当金	△ 39	△ 42	3
固定資産	156,819	156,090	728
1 有形固定資産	133,830	134,764	△ 934
建物及び構築物	105,262	110,468	△ 5,206
機械装置及び運搬具	1,665	1,879	△ 214
土地	10,578	10,578	—
建設仮勘定	12,026	6,972	5,054
その他	4,297	4,865	△ 568
無形固定資産	902	616	285
投資その他の資産	22,086	20,709	1,377
投資有価証券	7,585	8,847	△ 1,262
繰延税金資産	8,380	8,406	△ 25
その他	6,120	3,454	2,665
資産合計	190,060	186,364	3,695

(負債の部)

	当中間期 2009年9月30日現在	前期 2009年3月31日現在	増減
流動負債	42,685	25,665	17,019
買掛金	4,505	4,274	231
短期借入金	28,411	9,324	19,087
未払法人税等	1,089	2,009	△ 919
賞与引当金	964	868	95
役員賞与引当金	66	170	△ 103
その他	7,647	9,018	△ 1,371
固定負債	45,800	38,141	7,659
長期借入金	34,247	26,290	7,957
退職給付引当金	4,787	4,897	△ 109
役員退職慰労引当金	—	1,383	△ 1,383
その他	6,765	5,570	1,194
2 負債合計	88,486	63,807	24,679

(純資産の部)

	当中間期 2009年9月30日現在	前期 2009年3月31日現在	増減
株主資本	99,906	119,330	△ 19,423
資本金	17,489	17,489	—
資本剰余金	21,309	21,310	△ 0
利益剰余金	65,188	80,611	△ 15,423
自己株式	△ 4,080	△ 80	△ 4,000
評価・換算差額等	△ 283	950	△ 1,233
その他有価証券評価差額金	835	974	△ 139
繰延ヘッジ損益	△ 1,118	△ 24	△ 1,094
少数株主持分	1,951	2,276	△ 325
純資産合計	101,574	122,557	△ 20,983
負債及び純資産合計	190,060	186,364	3,695

(注)金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結損益計算書(要旨)

(単位 百万円)

	当中間期 自2009年4月1日 至2009年9月30日	前中間期 自2008年4月1日 至2008年9月30日	増減
営業収益	60,221	69,089	△ 8,868
売上原価	28,827	34,585	△ 5,758
営業総利益	31,394	34,504	△ 3,110
販売費及び一般管理費	29,051	30,603	△ 1,552
営業利益	2,342	3,900	△ 1,557
営業外収益	713	764	△ 51
営業外費用	758	457	300
経常利益	2,298	4,207	△ 1,909
特別利益	14	—	14
特別損失	41	—	41
税金等調整前中間純利益	2,272	4,207	△ 1,935
法人税等	990	1,792	△ 802
少数株主損益	△ 11	51	△ 62
中間純利益	1,293	2,363	△ 1,070

(注)金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位 百万円)

	当中間期 自2009年4月1日 至2009年9月30日	前中間期 自2008年4月1日 至2008年9月30日	増減
I 営業活動による キャッシュ・フロー	5,872	7,091	△ 1,218
II 投資活動による キャッシュ・フロー	△ 7,533	△ 6,814	△ 719
III 財務活動による キャッシュ・フロー	5,994	△ 5,695	11,689
IV 現金及び現金同等物に 係る換算差額	0	△ 0	0
V 現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	4,334	△ 5,418	9,753
VI 現金及び現金同等物の 期首残高	15,693	16,088	△ 395
VII 現金及び現金同等物の 中間期末残高	20,027	10,669	9,358

(注)金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

1 有形固定資産

建設仮勘定は、羽田空港第2旅客ターミナルビル増築工事等により、前期末比50億円増加しましたが、減価償却費の遡減等により、建物及び構築物等の償却資産は、前期末比60億円の減少となりました。これらの結果、当中間期末の有形固定資産は、前期末比9億円の減少となりました。

2 負債合計

自己株式公開買付資金および第2旅客ターミナルビル増築工事の資金として、短期および長期借入を実施したこと等により、負債合計では、前期末比246億円の増加となりました。

3 営業収益

景気の低迷に加え、新型インフルエンザ等の影響による航空旅客数の減少および卸売契約が一部終了したこと等により商品売上高は大幅に減少し、当中間期の営業収益は、前年同期比12.8%減となりました。

4 営業利益

販売費及び一般管理費は、前年同期比5.1%減とコスト削減に努めたものの、当中間期の営業利益は、前年同期比39.9%減となりました。

コラム

Column

「羽田スタースイーツ」第2弾が登場 ～ふたたび、スイーツの星が生まれます～



新ブランド4店が登場するスイーツのセレクトショップ「羽田スタースイーツ」第2弾が2009年6月1日にスタートしました。2008年12月にオープンした「羽田スタースイーツ」とはその名の通り、「スターになるスイーツ」を全国、世界に広めていこうというコンセプトのもと、厳選されたブランドが次々登場するスイーツのセレクトショップです。スイーツトレンドをリードするブランドを羽田空港から発信し、多くの方々に広めていきます。今回の第2弾は、「まめぐい」「神楽坂茶寮」「麦工房 by CYBELE」「ティオグラトン熟」の4ブランド。選べる楽しさやヘルシーなスイーツなど今話題のスイーツが羽田空港に初登場。「羽田スタースイーツ」に来ればいつでも話題のスイーツに出会えます。大切な人へのプレゼントや、また自分へのご褒美として、もちろんお土産としてもきっとご満足いただけます。2009年12月からは「羽田スタースイーツ」第3弾がスタートします。ご期待ください。



- | | |
|---|---------------------------------|
| 1 | 1. まめぐいみやげ (羽田空港限定商品) |
| 2 | 2. 神楽坂茶寮「生数のあんみつ」 |
| | 3. 麦工房 by CYBELE「ラスク・フランス」 |
| | 4. ティオグラトン熟「ケフィアレアチーズケーキ無垢Muku」 |

株主優待

Shareholder Special Benefit

株主ご優待券がご利用いただけます

羽田空港旅客ターミナルビル内物販・飲食店舗・エアポートラウンジおよび成田国際空港、関西国際空港等直営売店にてご利用いただけます。



株式情報 (2009年9月30日現在)

Stock Information

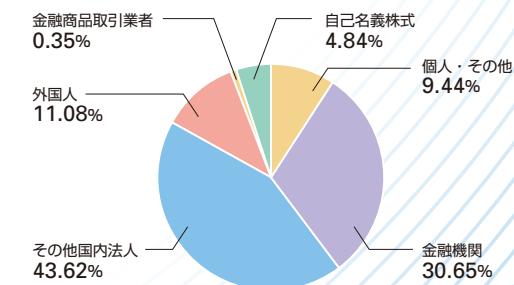
株式の状況

発行可能株式総数	288,000,000株
発行済株式の総数 (うち自己株式 4,089,058株)	84,476,500株
株主数	5,618名

大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数 (千株)	出資比率 (%)
株式会社日本航空インターナショナル	4,398	5.20
全日本空輸株式会社	4,398	5.20
日本空港ビルデング株式会社	4,089	4.84
株式会社みずほコーポレート銀行	3,835	4.53
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (住友信託銀行再信託分・ 京浜急行電鉄株式会社退職給付信託口)	3,484	4.12
株式会社三菱東京UFJ銀行	3,408	4.03
三菱地所株式会社	3,111	3.68
大成建設株式会社	2,831	3.35
日本通運株式会社	2,337	2.76
東京海上日動火災保険株式会社	2,071	2.45

所有者別株式数分布



会社概要 (2009年9月30日現在)

Corporate Data

会社概要

- 商号 日本空港ビルデング株式会社
Japan Airport Terminal Co., Ltd.
- 設立 1953年7月20日
- 資本金 174億8,920万円(東証一部上場)
- 事業内容 (1) 東京国際空港(羽田) 旅客ターミナルビルの建設、管理運営
① 航空旅客ターミナル施設、見送迎施設等の建設、管理
② 航空運送事業者および空港構内営業者に対する事務室、店舗、作業場等の賃貸
- (2) 物品販売業務
① 東京国際空港(羽田) 旅客ターミナルビルにおける物品販売業務
② 成田国際空港旅客ターミナルビルにおける物品販売業務
③ 関西国際空港旅客ターミナルビルにおける物品販売業務
- (3) その他のサービス業務
① 東京国際空港(羽田) 利用者に対する案内業務、駐車場、旅行傷害保険代理業、ホテルあっせん等のサービスの提供
② 成田国際空港利用者に対する旅行傷害保険代理業、ホテルあっせん等のサービスの提供

本社および営業所等

- 本社 東京都大田区羽田空港三丁目3番2号
(東京国際空港内)
- 東京事務所 東京都千代田区大手町二丁目6番2号
日本ビル10階
- 成田営業所 千葉県成田市古込字込前164番地
(成田国際空港内)
- 大阪営業所 大阪府泉南郡田尻町泉州空港中1番地
(関西国際空港内)
- 中部営業所 愛知県常滑市栄町一丁目124番地

役員

- | | |
|--------------|--------|
| 取締役会長 | 門脇 邦彦 |
| 代表取締役社長執行役員 | 鷹城 勲 |
| 代表取締役副社長執行役員 | 土井 勝二 |
| 代表取締役副社長執行役員 | 櫻井 正志 |
| 専務取締役執行役員 | 山本 兵一 |
| 専務取締役執行役員 | 石黒 正吉 |
| 常務取締役執行役員 | 安藤 隆 |
| 常務取締役執行役員 | 横田 信秋 |
| 常務取締役執行役員 | 高橋 篤郎 |
| 常務取締役執行役員 | 中岡 進 |
| 取締役 | 高木 丈太郎 |
| 取締役 | 小谷 昌 |
| 取締役 | 戸矢 博道 |
| 取締役 | 竹中 哲也 |
| 取締役 | 霜田 明彦 |
| 常勤監査役 | 眞貝 和夫 |
| 常勤監査役 | 森田 一夫 |
| 監査役 | 赤井 文彌 |
| 監査役 | 樋口 公啓 |
| 監査役 | 大鷲 雅一 |
| 常務執行役員 | 田中 一禎 |
| 常務執行役員 | 中村 元一 |
| 執行役員 | 岩松 孝昭 |
| 執行役員 | 岡本 保弘 |
| 執行役員 | 森岡 洋一 |
| 執行役員 | 古賀 宰 |
| 執行役員 | 宮内 公 |
| 執行役員 | 後藤 久 |
| 執行役員 | 松本 真澄 |
| 執行役員 | 河合 誠 |



1953年、当社は東京国際空港(羽田)の旅客ターミナルビルの建設・管理運営を目的として設立されました。

現在、当社グループは、施設管理運営業のほか、免税店などの物品販売業、空港内レストランや機内食製造・販売などの飲食業を展開しております。

CS理念「訪れる人に安らぎを、去り行く人にしあわせを」のもと、すべてのお客様にご満足いただけるよう、サービスの向上に取り組んでいます。

基本理念

公共性と
企業性の調和

経営方針

- 旅客ターミナルビルにおける絶対安全の確立
- お客様本位(利便性・快適性・機能性)の旅客ターミナルビル運営

- 安定的かつ効率的な旅客ターミナルビル運営
- 企業体質の強化およびグループ企業の総合力向上

